

『語るだけ・聞くだけ』
語り部クラブで利用者が導く先

クラブ活動

講師は利用者

身近な評価

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

やすらぎデイサービスセンター

発表者
(研究者)

介護職員 多田 祥子

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人 栄和会
開設年月日	平成6年5月1日	所在市町村	札幌市
市町村人口	1,941,525 人	65歳以上人口 (高齢化率)	437,989 人 (高齢化率 22.8 %)
利用者定員数	40 人	利用者平均年齢	82.4 歳
職員数	15 人	職員数内訳	介護職 11名 看護職 3名
併設施設・事業	ケアハウスやすらぎ・特別養護老人ホーム栄和荘(厚別栄和荘デイサービスセンター)・介護老人保健施設あつべつ・特別養護老人ホームひらおか梅花実・デイサービスセンターあつべつ南5丁目・札幌市厚別区第1、第2地域包括支援センター		
施設のサービスの概要	広いフロアを活用し生活動作訓練や選択レクリエーションを行い、居宅サービスとして理念の一文にある地域共存・共栄を目指しています。		

発表の概要

①取り組んだ課題

地域包括ケアシステムの構築を念頭にサービスの充実を考えると、通所介護の役割は生活機能向上であり、利用者の明確な目的が必要と感じた。高齢者の住まい環境が変化してきている中、生活に安心やゆとりを持って頂けるように、クラブ活動を通じて利用者本来の力や必要とされている価値の発見を体感して頂く事を目指した。

- 1、先人の本領発揮
- 2、意欲の向上
- 3 孤独感の解消

②具体的な取り組み

1、語り部クラブ開始
平成25年6月サービス内容企画開始
利用者が講師となる活動等を経て参加者募集
毎週木曜日、昼食後の1時間で活動開始。
本人、家族に出生からの年表作成をお願いしたことで記憶の確認が出来、参加時の会話がスムーズとなった。
3ヶ月後—準備、後片付、次回活動内容等参加者で準備。
6ヶ月後—地域参加の希望あり障害者就労支援事業所での食事会を実施。
参加者自ら他の利用者に参加を呼び掛ける事が見られた。
8ヶ月後—原爆体験者の利用者に参加者が講師を依頼。
ミニ講演会を実施する。
10ヶ月後—参加者による自主公演
「戦後を振り返り今を語る」
2、クラブ参加で自信を回復
デイ利用中での便失敗により自信を失っていた利用者に戦時中の思いや体験を話して頂く。
職員は学ぶ側利用者は師という関係を構築する。
3. クラブが賑やかに顔なじみが増える。
開始前「隣組」を合唱。
参加者が昭和の隣組となる。

③活動の成果と評価

自分史作りという型から始めた「語り部クラブ」は現在、利用者が思うままに内容を充実させ、自己満足や自信を回復させる原動力となっている。評価(モニタリング)が基準に準じる為のものだけで無く、活動を通じて利用者に実感してもらったのが評価が出来たと感じる。

活動成果

年を重ねてこそ発揮できる「伝える言葉の強さ」を家族、関係者が知る機会となった、特に利用者本人が実感出来たのではないかと感じる。

④今後の課題

①クラブを先導する職員の育成

配置等で決められた体制でサービスを行っている職員に個別の要望を受け入れ、臨機応変に開催環境や資料等の準備を行う事は出来ない為、趣旨や目的を明確にし準備の段階から指導を行う必要性を感じている。

②小グループが最適

現在実施しているグループは10名程度であり、会話の流れや利用者の関係性を考慮すると現状が最適と感じる。今後、参加希望者が増える可能性を踏まえて検討が必要。

⑤参考資料など

- ・わたしの自分史ノート ディスカバー・トゥエンティーワン編
- ・歴史としての戦後日本(上) アンドルーゴードン